

■郡山城

「郡山城は、平山城または平城として明智光秀や藤堂高虎らが普請に携わり、筒井順慶や羽柴秀長らの主導によって改修された。奈良は良質な石材が乏しかったため、奈良一帯の各戸に五郎太石 20 荷の提供を義務付け、寺院の石地蔵や墓石、仏塔なども徴発され石垣石として使用された。中には、平城京羅城門のものであるといわれる礎石が使われていたり、8 世紀ごろの仏教遺跡である「頭塔」（奈良市）の石仏が郡山城の石垣の中から見つかっている。17 世紀初頭、増田長盛が改易された後一時廃城となるが、水野勝成入封時に徳川幕府よって改修を受けた。その後は譜代大名が歴代城主を務め、柳沢吉里が入封後は柳沢氏が明治維新まで居城とした。桜の名所として、日本さくら名所 100 選に選定されている。」（「ニッポン城めぐり」HP より転載）「明治維新後、多くの建物は破却されたが、近年、追手門・櫓・天守台などが修復・整備され、城跡に一段と風格を添えている。続日本 100 名城(財団法人日本城郭協会)に認定されている。」（奈良県「なら旅ネット」HP より転載）

■佐保川の桜並木（本数はソメイヨシノ 1,000～1,100 本）

「奈良市を代表する河川であり、万葉集などの歌枕としても有名な佐保川一帯には、奈良市内中央部を南北に貫く形で約 5 キロに渡り、途切れることのない壮大な桜並木が広がっています。佐保川の桜は、奈良市内の桜の名所としては他の追随を許さない最大の規模を誇り、県内でも有数の桜の名所として知られます。」（「奈良まちあるき 風景紀行」HP より転載）「以前は地元の人以外にはほとんど知られていない隠れた桜の名所だったが、近年では遊歩道が整備され、夜間のライトアップも行われるようになり、花期にはたくさんの人でにぎわうようになってきた。」（「奈良県立図書情報館」HP（2010 年の奈良の実景）より転載）

■奈良県立図書情報館

「文化情報の発信基地としての役割を担った県立の総合図書館。収蔵図書は一般書籍をはじめ、奈良の歴史や文化に関する書籍・史料など、現在約 25 万冊の蔵書を誇る。また全国でも珍しい「戦争体験文庫」を有する。2F エントランスをはじめ、3F 階段横の展示など、多種多様な企画展がつねに催されている。また、奈良の文化歴史に関する講座も開催。奈良は日本初の図書館といわれる「芸亭（うんてい）」が置かれた地で、その歴史に恥じない総合図書館として、平成 17 年（2005）11 月に開館した。」（「ええ古都なら」HP より転載）

■川路桜

「「川路」桜は、「川路聖謨（1801 年～68 年）」という名のかつての奈良奉行が、幕末に着任してから行った施策の中で植樹されたものとなっています。」（「奈良まちあるき 風景紀行」HP より転載）「樹齢は 170 年程度とされており、奈良市内に咲く桜としては最も古い部類に入るものとなっています。」（「奈良まちあるき 風景紀行」HP より転載）

■大仏鉄道記念公園

大仏鉄道とは、明治 31 年（1898）に開業し、加茂駅と大仏駅、翌年に奈良駅（現在の JR 奈良駅）までを結んだ関西（かんせい）鉄道株式会社の路線（通称名）です。現在の JR の加茂駅—木津駅—平城山駅—JR 奈良駅よりも東側を通り、勾配の大きい坂やトンネル、橋梁が多く、当時の機関車で運行が困難であったことから、開通から 9 年間で廃線となりました。現在、当時の線路は残っていませんが、加茂駅に動輪モニュメントがあるほか、橋梁（橋台）やトンネル跡が一部遺構として残っており、ハイキングコースなどとしても人気があります。大仏鉄道（大佛鐵道）記念公園は、大仏駅跡に機関車の動輪モニュメントと説明碑が建てられた小さな公園です。（「奈良観光.jp」HP より転載）

「なお、公園には 1 本の立派な枝垂れ桜が全体を覆うように生えており、桜のシーズンになると、鮮やかなピンクの花が一面に広がり、桜の真下、「車輪」のモニュメント付近からは光の加減で様々な色彩を見せる枝垂れ桜を楽しむことができます。枝垂れ桜の真下から優雅な姿を眺めることができるスポットはそれほど多くありませんので、なかなか貴重な体験ができるスポットとなっています。」（「奈良まちあるき 風景紀行」HP より転載）